

海老名警察署長・海老名市長対談



安全・安心なまち 海老名

海老名警察署と市では、私たちの安全・安心な生活を維持するため、日々取り組みを行っています。今号では、「安全・安心なまち 海老名」をテーマに、海老名警察署の小平署長と内野市長が行った対談を抜粋してお知らせします。なお、この対談の様子は、インターネット放送局でも放映しています。ぜひご覧ください。

― 安全・安心に関する海老名警察署の取り組みにはどのようなものがありますか？

小平署長

相鉄線がみ野駅前にある、安全・安心ステーションに警察官1人を常駐させ、市の青パトと連携し、警戒力の強化に努めています。また、地域の声としてあがっている、ごみの投棄や近隣トラブル、駐車違反などを何とかして解決していきたいと取り組んでおり、現時点で97件の案件中、44件が解決済みです。このほか空き巣対策として、被害の多い日没前後1時間に、パトカーと捜査車両で、集中的にパトロールを行っています。

9月には、市内の新聞販売店と、孤立死を防ぐための協定を結びました。これは、新聞が2日分たまっていて、両戸も閉まったままの独

居家庭を発見した場合には警察に通報し、通報を受けた警察がすぐに確認に向かうという内容です。さらに、夜間の集中警らとして、深夜帯に住宅地などのパトロールを行い、巡回したことが分かるよう、ポストにパトロールカードを入れていきます。このカードを見た方に、「見守っていてくれて安心」と感じていただき、周囲の方にも、口コミなどで警察が行っていることを広めてくれるとありがたいと思っています。

― 市が行っている、安全・安心のための取り組みについてお話しください。

内野市長

24時間作動の防犯カメラや、110番に直接つながるインターホンを内蔵した海老名市型防犯緊急

― 防災の面での取り組みにはどのようなものがありますか。

内野市長

東日本大震災の教訓からも分かるように、大きな災害が起きた時に被害箇所を早急に確認することが第一です。そのために、高所防災カメラを(株)リコーテクノロジーズセンターの屋上に設置し、11月から運用を開始しました。市内の被害状況の把握を行い、被害があった時にすぐ対応していく体制を整えるということです。

また、避難所の設置・運営をしっかりやるということで、避難所開設訓練なども実施しています。加えて、避難所での生活には食糧や水などの備蓄が必要になるため、大型備蓄倉庫を市内3カ所(建設中を含む)に設置しました。この中に、30万食の食糧などを備蓄しているかと考えています。他に、えびなメールや防災行政無線など、災害時の情報伝達には各種媒体を使って、迅速に対応していきたいと考えています。

行政側の対応については、着実に準備を進めています。各家庭

通報装置を市内9カ所に設置しており、今後も増やす予定です。青パトでのパトロールも、地域の皆さんの安全・安心のため、ことしから365日巡回にしました。また、地域の皆さんの要望が多かった、相鉄線がみ野駅前の安全・安心ステーションについても、開設時間を拡大して運営を行っています。



防災カメラが映す海老名駅方面。災害発生時以外の9時～16時の間、市ホームページでライブ映像を配信中。

― 警察署と市が協力して行っている取り組みにはどのようなものがありますか。

小平署長

市との連携は、常日頃から行っていて、日常的には交通規制などの道路交通関係が多いです。各種啓発キャンペーンも、市と一緒にしています。

9月に行った、秋の全国交通安全運動には、海老名高校の生徒が多数参加してくれました。自分たちのまちを将来作っていく若い生徒たちが参加してくれたことに、とても感謝しています。こうしたボランティア的な取り組みが、市内の他の学校にも広がって欲しいと願っています。

内野市長

各地域には、自主防災組織や防犯体制もあるため、警察と市が連携すれば、地域の皆さんも協力し

やすくなると思います。以前に比べ、市内の犯罪発生件数は減少傾向にあります。これを維持していくためには、地域の力が不可欠です。また、青少年の犯罪も多いので、先ほども話にありましたが、高校生を巻き込んだキャンペーンなども、相乗効果として安全・安心なまちづくりにつながっていくと考えています。

〈4ページへ続く〉

海老名高校の生徒が参加した秋の交通安全キャンペーン

